

バタバタとしているうちに10月。彼岸花があちらこちらで咲き、朝夕は涼しくなった。秋の訪れを感じる一方でツクツクボウシが鳴いている▼9月の後半、2名の教育実習生を受け入れていた。阿下喜小学校の卒業生、先輩である。2年生と4年生に入り、担任が担当となり指導にあたってもらった。教員免許状の取得のためには、教育実習は欠かせない。我々教員は必ず通る道である▼子どもにとって実習生との出会いは、新鮮であり、うれしい。実習生が授業をする時には、普段以上に頑張ろうとする。このがんばりは、子どもからのエールなのだ。実習生と子ども、一期一会の出会いである▼あっという間の実習期間。名残惜しく涙ぐむ子もいれば、笑顔でサヨナラする子。子どもには、確実に「よき思い出」となっている▼実習生の一生懸命子どもに向き合い、授業に向き合う姿勢から、自らを振り返り、教育の道を志した時の情熱を思い起こす。「闘志無き者は去れ！」久しぶりにこんな言葉を思い出した。我々には「闘志」はないが「情熱」がある▼担当教員の一人が、実習生にこんなメッセージを綴っている「あなたがこれから担任する子どもたち一人ひとりを理解しようと努め、その子に何がいいのか考え続け、日々挑戦してってください。」若者の未来を祈念したその言葉は、担当教員が日々持ち続けている「情熱」の一端でもある。